国語科　　　　　　　　　　　　第４学年　国語科学習指導案

 　　　　　　　　　　　　　 　　　検証授業①令和元年7月7日２校時

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　検証授業②令和元年７月８日３校時

 　 ４年３組35名

 　　　授業者　　新里　照実

１　単元名助け合って生きる生き物の不思議を新聞に紹介しよう

　　　　　　　　　　 教材名　「ヤドカリとイソギンチャク」「みんなで新聞を作ろう」（東京書籍４年上）

２　単元の目標

(1)　考えを支える理由や事例について、全体と中心などの関係について理解することができる。

【知識及び技能　(2)ア】

(2)　書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考

えたりすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　【思考力，判断力，表現力等　Ｂ書くこと(1)イ】

(3) 内容の中心や文章の構成を考えて新聞で伝え合おうとする。　　　　　 　 　　　　 【学びに向かう力，人間性等】

３　言語活動の特徴

　(1) 本単元を貫く言語活動として、「生き物の不思議を新聞に書き、３年生に紹介する」ことを位置付けた。

　(2)　言語活動の特徴として、二次の「読みとり」から三次の「読みとったことを生かして新聞に書く」活動を交互にワンセットにして、読み取りからの学びをすぐに「新聞に書く」ことに反映させられる活動を特徴とする。

(3)　二次の学習と、三次の学習をワンセットにした授業計画で、可視化した振り返りノートの活用と対話的な活動を取り

　 入れていく。その中で、毎時間、丁寧に学びの跡を見直すことで「読む」から「書く」への接続を図る。

４　単元について

(1)　児童観

　　　 本学級の児童は、前年度に、説明文「自然のかくし絵」において、「読むこと」の学習で、大事な言葉や文に着目し

て、段落ごとに書かれている内容を読み取ってきた。しかし、文章のまとまりを意識し、段落相互の関係を捉えること

は不十分である。また、児童は、前年度「書くこと」の学習で、レポートを書く学習を行ってきた。調べたことを分か

りやすく整理して書く学習はしてきているが、「書く内容の中心を明確にして書く」ことは、未習事項である。前年度

の到達度調査や標準学力調査では、「書くこと」に関する正答率が約５割と低い結果であった。

本学級の児童を対象に実施したアンケート調査は、「国語を学ぶ意欲に関すること」、「国語科における対話的な活動に関すること」、「書くこと」に関することについて、結果は以下の通りである（表１）。

表１　国語に関するアンケート結果

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | アンケートの内容項目 | そう思う　　　　　　４ | だいたいそう思う　　　　　　　　３ | あまりそう思わない　　　　　 　２ | そう思わない　　　　　　　１ |
| １ | 国語の学習は好きだ。 | 約20.6　％ | 44.1　％ | 23.6　％ | 11.8　％ |
| ２ | 国語の授業では、自分から積極的に話し合いに参加している。 | 11.8　％ | 38.2　％ | 35.3　％ | 14.7　％ |
| ３ | 国語の授業で、友達の考えと、自分の考えを比べながら聞いている。 | 23.5　％ | 55.9　％ | 17.6　％ | 3　％ |
| ４ | 国語の授業で、友達の考えを聞いて、なるほどと気づかされたことがある。 | 61.8　％ | 11.8　％ | 20.6　％ | 6　％ |
| ５ | 国語の授業で、友達の考えを聞いて、自分の考えや文章を直したことがある | 20.6　％ | 55.9　％ | 17.6　％ | 6　％ |
| ６ | 手紙や、読書郵便、日記等に文章を「書くこと」は好きだ。 | 55.9　％ | 17.6　％ | 38.2　％ | 17.6　％ |
| ７ | 振り返りには、どんなことに気を付けて書いているか。 | 〇授業で大切だと思たこと３名 　　〇授業で学んだこと18名 　　　　　　〇感想１名〇苦手で難しいところ２名 　　　　　　〇これからの学習について２名 　　　〇その他記入なし |

　　　 以上のことから、国語科における対話的な活動に関して、話し合いに積極的に参加している児童の割合は、「そう思

う・だいたいそう思う」の割合が50％と低いが、友達の考えを参考に自分の考えと比べたり、友達の考えから気付か

されたり、友達の考えから自分の考えを直したりしたという児童の割合は70％を超えている。学習の中で、「友達か

ら気づかされ、自分の学習に生かす」という姿勢は高い。前年度、到達度調査や標準学力調査での「書くこと」の正答

率は約50％と、低い結果ではあったが「書くことが好きだ」と答えた児童は70％を超えていて「書く力」を育むこと

が期待できる。また、これまでの学習の中での「振り返り」の記入内容については、ばらつきがあったが、本単元で

は、視点をもって振り返りノートを記入し対話的な活動と繋げ、学びを友達から吸収し自己の学習に生かすことがで

きるようにする。振り返りノートの活用と対話的な活動を通して、児童に視点を持たせ「読む」から「書く」への接

続を丁寧に行い「相手や目的に応じて書く力」を育む。

(2)　単元構成について

　　　 本単元は、教材名「ヤドカリとイソギンチャク」で読み取り、教材名「みんなで新聞を作ろう」で書くことを、リン

クさせ「生き物の不思議を新聞に書き紹介する」活動を設定している。学習指導要領「書くこと」(1)イ「書く内容の

中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。」

と、「知識及び技能」である「接続する語句の役割」「段落の役割」「理由や事例」等の学びを、相互に関連させ、児童

に身に付けさせたい力としている。

　単元導入の第一次では、ゴールである新聞を書くことについて触れ、単元全体を通して、児童自身が学習計画を立てる。学習に取り組むにあたり、児童に、「３年生に新聞を紹介する」という相手意識を持たせることから始まる。さらに、｢新聞の不思議を紹介するため」という目的意識を持たせ、児童は学習に臨む。展開の二次では、主に「ヤドカリとイソギンチャク」の読み取りから「語句」に関することや「筆者の書きぶり」に関することを学び、最終的に、「筆者の書きぶりから自分の書きに生かせそうなところ」を学ぶ。発展の三次では、二次の読み取りからの学びを「新聞に書く」活動へとつなげる。教材文からの読み取りを新聞に書き表す言語活動が単元を一貫して行える単元構成になっている。

(3) 指導観

本研究で、目指すところは、「相手や目的に応じて書くことができる力」を育むことである。児童は、単元を通して、

常に、「相手や目的意識」を持つことが重要となる。その部分を意識させながら、読み取りや、振り返りノートの活用、

対話的な活動を行わせたい。「読み取り」から「書く」活動をワンセットにしたこの単元では、振り返りノートの活用

と、対話的な活動を充実させることが鍵となる。特に、教師の指導としては、児童が振り返りノートに残した学びの跡

を、新聞を書くことに繋げるという「接続」の部分で、児童に丁寧に取り組ませることが大切となる。また、「読む」から「書く」への「接続」を図る中で、児童が、「学びのチェック表」を用いて、筆者の書きぶりを自分の書きに生かせているか、見落としなく書き込めているか、確認することも重要である。

本単元は、児童が「３年生の児童に、生き物の不思議を紹介する新聞を書く力」が身につくために、児童のイメー

ジ像を持ち段階をおって学習を進める（表２）。

　　　　　　　　　　　　　　　表２　相手や目的に応じて書くための児童の姿

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １ | 相手意識を持つ | ３年生の児童に向けて書くことを意識する |
| ２ | 目的意識を持つ | 生き物の不思議を紹介する新聞を書くことを意識する |
| ３ | 教材で学ぶ〔知識及び技能〕〔思考力，判断力，表現力等〕に関すること | 「ヤドカリとイソギンチャク」から学ぶ・文章構成（始め・中・終わり）・「問い」と「答え」　　　　　　　　　　　 　　・接続語、理由や事例・筆者が一番伝えたいこと　　 　　　　・筆者の説明の仕方（筆者の書きぶり）「みんなで新聞をつくろう」から学ぶ・明確に伝わるように記事を書くことについて　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| ４ | 相手や目的に応じて書く | 新聞（内容の中心を明確に書く）という目的にあわせて書く・内容のまとまりで段落をつくる（文章の構成）・語句の役割を利用　　・段落相互の関係に注意する（文章の構成）　　・考えを伝えるための理由や事例を入れて書く　 |

児童が、振り返りノートを活用する際には、「①毎時間の学びのまとめ（めあてに正対したまとめ）」、②「私の発見

（身に付けさせたい語句）」を振り返る。③「筆者の書きぶりの気づきから自分の書きぶりに生かせそうなところ」を記

入し学びの跡を可視化する。さらに、次時に、その可視化した振り返りノートを用いて、ペアで、対話を行う。対話で

は、「疑問点や、知りたいこと、友達の考えから気付いたこと」の対話を通して、大事な気づきを赤ペンで箇条書きに

し、振り返りノートに書き留めていく。また、身に付けさせたい項目として「学びのチェック表」も同時に活用させる。

５　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ★考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報の関係について理解しようとしている。　　 　　　　　　　【(2)ア】 | ★「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。　　　　　　　　　　　　　　　　【(1)イ】 | ★積極的に学びを通じて人に関わり，内容の中心や文章構成を考え，今までの学習を生かして，新聞で伝えようとしている。 |

６　指導計画と評価計画（全11時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習目標 | 主な学習活動 | ♦指導上の留意点【ＡＢワンセット学習の振り返りノート活用】 | 評価規準【評価方法等】 |
| １ | 生き物の不思議を紹介する新聞を書く計画を、立てることができる。 | ⑴生き物の不思議を新聞で紹介する学習計画を立てる。⑵新聞の特徴や工夫を話し合う。 | ♦教材文の学習を通し、学んだことを生かして、生き物の不思議を紹介する新聞を作成する計画を自分達で立てさせる。 |  |
| ２ | 大まかな文章構成を捉え「始め」「中」 「終わり」 に分けることができる。 | ⑴文章を「始め」「中」「終わり」三つに分ける良さを話し合う。⑵「問い」と「答え」の関係を抑え、本文に罫線を入れる。⑶自身の書きについても、三段落構成に分け構成メモを書く。 | ♦なぜ、三段落構成で説明文が書かれているのか、その良さについて話し合わせる。♦段落で「問い」と「答え」の関係に気付かせる。♦生き物の不思議（自身の書き）について、三段落構成のメモを大まかに書かせる。 | 思・判・表**【ノート】**文章全体を大づかみに捉え、三段落構成の良さに気付いているかの確認。 |
| ３**Ａ****第二次** | 本文の「始め」と、「終わり」の内容を捉えることができる。 | ⑴「始め」には何が書かれているか考える。⑵「終わり」に書かれていることを考える。⑶振り返りノート（①②③）を記入する。 | 【めあて】本文の文章構成の「始め」と「終わり」には、どのようなことが書かれているのかな。【予想されるまとめ】本文の文章構成は「始め」には、事例を取り入れた話題提示、「終わり」には、筆者が一番伝えたいことが書かれている。 | 知識・技能**【ノート】**「始め」に話題提示（事例）、「終わり」に筆者の一番伝えたいことがあることに気付いているかの確認。 |
| ４**Ｂ****第三次** | 生き物の不思議を書くために三段落構成の「始め」と、｢終わり」を新聞に書くことができる。 | ⑴振り返りノート「筆者の書きぶりから自身の書きに生かせそうなところ」を話し合う。⑵生き物の不思議(自身の書き)「始め」と「終わり」を仕上げる。⑶「学びのチェック表」を記入する | **Ａ後半振り返り15分【学習を振り返る】**振り返りノート（①②③）の記入（個）**Ｂ前半振り返り10分【振り返りから対話】**振り返りノート③を対話(ペア)【めあて】生き物の不思議（〇〇と○○）について、話題提示「始め」と、一番伝えたいこと「終わり」を書こう。【予想されるまとめ】新聞の「始め」に事例を取り入れた話題提示と、「終わり」に一番伝えたいことが書けた。 | ★思・判・表【新聞】内容の中心を明確にし、｢始め｣話題提示（事例）と、「終わり」に一番伝えたいことを書いているかの確認。 |
| ５**Ａ****第二次** | 本文の「中」の内容を捉えることができる。（ヤドカリがイソギンチャクをつけている理由） | ⑴「問い」と「答え」の関係を知り、詳しくするための理由や事例を読み取る。⑵ヤドカリがイソギンチャクをつけている理由を要約し関係を知る⑶振り返りノート（①②③）を記入する。 | 【めあて】本文「中（本論１）」には、どんなことが説明されているのかな。【予想されるまとめ】本文の「中（本論１）」には、実験の事例をあげヤドカリがイソギンチャクをつけている理由が説明されている。**Ａ後半振り返り15分【学習を振り返る】**振り返りノート（①②③）の記入（個）**Ｂ前半振り返り10分【振り返りから対話】**振り返りノート③を対話(ペア) | 知識・技能**【ノート】**「問い」と「答え」それを詳しく説明するために理由や事例があることを捉えたかの確認。 |
| ６**Ｂ****第三次** | 生き物の不思議を書くために「始め」「中」「終わり」の段落構成で「中」の部分を、新聞に書くことができる。 | ⑴振り返りノート「筆者の書きぶりから自身の書きに生かせそうなところ」を話し合う。⑵生き物の不思議(自身の書き)の「中」を書く。⑶「学びのチェック表」を記入する | 【めあて】生き物の不思議（〇〇と○○）について具体的な理由や事例をあげ文章の「中」を書こう。【予測されるまとめ】理由や事例を使って文章の「中」を書くことができた。 | ★思・判・表**【**新聞】「問い」に対する「答え」を、理由や事例をあげ、ひとまとまりの内容にして、書けたかの確認。 |
| ７**Ａ****第****二次** | 本文の｢中｣の内容を捉えることができる。（イソギンチャクにとっての利益） | ⑴イソギンチャクにとっての利益を要約して読み取る。⑵「事例」「理由」「接続語」をチェックし段落相互の関係を考える。⑶振り返りノート（①②③）を記入する。 | 【めあて】本文「中（本論３）」には、どんなことが説明されているのかな。【予想されるまとめ】本文の「中（本論３）」は、理由や事例、接続語を入れ、イソギンチャクの利益について説明されている。 | ★知識・技能【ノート】考えとそれを支える理由や事例、接続語との関係に気付いているかの確認。 |
| ８**Ｂ****第三次** | 生き物の不思議を書くために「始め」「中」「終わり」の段落構成で「中」の部分を、新聞に書くことができる。 | ⑴振り返りノート「筆者の書きぶりから自身の書きに生かせそうなところ」を話し合う。⑵生き物の不思議(自身の書き)の「中」を書く。⑶「学びのチェック表」を記入する | **Ａ後半振り返り15分【学習を振り返る】**振り返りノート（①②③）の記入（個）**Ｂ前半振り返り10分【振り返りから対話】**振り返りノート③を対話(ペア)【めあて】生き物の不思議（○○と○○）について、理由や事例、接続語を生かし「中」の説明を書こう。【予測されるまとめ】理由や事例、接続語を入れ、文章の「中」を書くことができた。 | ★思・判・表**【新聞】**内容の中心を明確にし、理由や事例、接続語を入れ、段落相互の関係を考え書いているかの確認。 |
| ９**Ａ****第二次** | 筆者が一番伝えたいことを、短い言葉でまとめることができる。 | ⑴これまでの学習をもとに、生き物の関係を図にまとめる。⑵筆者が一番伝えたいことは何か、短い言葉でまとめる。⑶振り返りノート（①②③）を記入する。 | 【めあて】この文章で筆者が一番伝えたいことを振り返り、短い言葉でまとめよう。【予想されるまとめ】筆者が一番伝えたいことは「生き物は互いに助け合って生きている」ということだと分かった。 **Ａ後半振り返り15分【学習を振り返る】**振り返りノート（①②③）の記入（個）**Ｂ前半振り返り10分【振り返りから対話】**振り返りノート③を対話(ペア) | 知識・技能**【ノート】**文章全体から筆者の一番伝えたいことを理解しているかの確認。 |
| 10**Ｂ****第三次** | 生き物の不思議で一番伝えたいことを短い言葉にまとめることができる。 | ⑴振り返りノート「筆者の書きぶりから自身の書きに生かせそうなところ」を話し合う。⑵生き物の不思議を書く中で、一番伝えたいことを短い言葉にする。（推敲と見直しを行う。）⑶「学びのチェック表」を記入する | 【めあて】生き物の不思議（○○と○○）で、一番伝えたいことを短いことばにまとめよう。【まとめ】生き物の不思議（○○と○○）の中で、一番伝えたいことは「・・・・　」と、まとめることができた。 | 思・判・表【新聞】書く内容の中心を明確にし、「一番伝えたいこと」を短い言葉で見出しに、書いているかの確認。 |
| 11 | ３年生に生き物の不思議新聞を紹介することができる。 | ⑴生き物の不思議を紹介する。⑵３年生と４年生が、互いの感想を伝え合う。⑶単元を振り返る。 | ♦筆者の説明の仕方や、論の展開の工夫を振り返らせながら紹介させる。♦振り返りノートを参照し単元を振り返らせる。 | ★主今までの学習から、内容の中心を伝えようとしているかの確認。 |

* 評価★は記録としての評価

７　本時の学習

（１）　 １／11時間

　　　① 本時の目標　　　生き物の不思議を紹介する新聞を書く計画を立てることができる。

　　 ② 本時の授業の工夫　　　・学習のゴールとしての具体物（生き物の不思議新聞）を提示し、児童に「生き物の思議を紹介する

新聞を書く」意欲を持たせる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・相手や目的を意識させ、自分たちで学習計画を立てさせる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５分 | １　単元の見通しをもつ。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　　生き物の不思議を紹介する新聞を書く計画をたてよう。 | ♦単元のゴールとなる「生き物の不思議を紹介する新聞」のモデルを児童に見せる。 |  |
| 展開35　分 | ３　新聞の特徴や工夫を話し合う。４　生き物の不思議を紹介する新聞を書く計画を立てる。 | ♦実際の新聞を見たり、これまでの学習で作成してきた新聞について思い出したりして、新聞の特徴を振り返らせる。♦生き物の不思議を紹介する新聞を作成する計画を自分達で立てさせる。 |  |
| まとめ５分 | ５　振り返る。 | ♦第１時の振り返りは感想とする。 |  |

（２） ２／11時間

① 本時の目標　 大まかな文章構成を捉え「始め」「中」「終わり」に分けることができる。

②　本時の授業の工夫　　ペアでの対話を取り入れ、なぜ、三段落構成で説明が書かれているのか、その良さを話し合わせ気付かせる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動　 | ♦指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時の学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　大まかな文章構成をとらえ、三段落構成に分ける良さを考えよう。 | ♦児童が作成した学習計画を確認させる。 |  |
| 展開25分 | ３　文章の構成について考える。　４　「始め」「中」「終わり」の三つに分ける良さを話し合う。５　自分の新聞を書くために、三段落構成のメモを書く。 | ♦３年生までに学習した「自然のかくし絵」について振り返らせる。♦なぜ、三段落構成で説明文が書かれているのか、その良さについて話し合わせる。♦３年生教材「自然のかくし絵」と比べて、共通点をさがさせ、段落の始めに、接続語や、「問い」と「答え」の関係があることの良さに気付かせる。♦生き物の不思議（自身の書き）について、三段落構成の大まかなメモを書かせる。 | ［思考・判断・表現］【ノート】文章全体を大づかみに捉え、「三段落構成」の関係や良さに、気付いているかの確認 |
| まとめ15　分 | ６　振り返る。 | ♦第２時の振り返りは感想とする。 |  |

（３）　 ３／11時間**（二次：Ａの学習）**

①　本時の目標　 本文の「始め」と「終わり」の内容を捉えることができる。

②　本時の授業の工夫　 ・ペアでの対話を取り入れ、「始め」と「終わり」に何が書いているか考えさせる。

　　　　　　　　　　 　・振り返りノート①②③を記入させることにより、学びを可視化し学習を見直すことができる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時の学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　 本文の文章構成の「始め」と「終わり」には、どのようなことが書かれているのかな。 | ♦本文（説明文）が三段落構成で書かれていることを再確認させる。 |  |
| 展開25分 | ３　本文の「始め」には何が書かれているか、対話を通して考える。４　本文の「終わり」に書かれていることを対話を通して考える。 | ♦本文「始め」の要点まとめより、「始め」には、話題提示としての事例が書かれていることに気付かせる。♦本文「終わり」の要点まとめより、「終わり」は、筆者が一番伝えたいことが書かれていることに気付かせる。 | ［知識・技能］【ノート】「始め」に、話題提示のための事例、「終わり」に筆者の一番伝えたいことがあることに、気付いているかの確認。 |
| まとめ15　分 | ５　まとめる。６　振り返る。 | ♦「まとめ」は児童の言葉で、まとめさせる。**予想されるまとめ**　 本文の文章構成は「始め」には、事例を取り入れた話題提示、「終わり」には、筆者が一番伝えたいことが書かれている。　　　　♦振り返りノート①②③を記入させる。 |  |

（４） ４／11時間**（三次：Ｂの学習）**

①　本時の目標　 生き物の不思議を書くために三段落構成の「始め」と「終わり」を新聞に書くことができる。

②　本時の授業の工夫　 可視化した振り返りノートを活用した対話を通して、筆者の書きぶりを自身の書きに生かして新聞

を書かせる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動　　 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時の学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　生き物の不思議（○○と○○）について、話題提示「始め」と、一番伝えたいこと「終わり」を書こう。 | ♦ 本文の「始め」と「終わり」に書かれていたことを確認させる。 |  |
| 展開35　分 | 【展開10分】３　振り返りノートを活用した対話を行う。【展開25分】４　生き物の不思議を紹介する新聞（自身の書き）の、「始め」と「終わり」の段落を仕上げる。 | ♦振り返りノート（筆者の書きぶり）から、自身の書きに生かせそうなところの対話をさせる。♦自分が調べ用意した生き物○○と○○についての話題提示の事例を「始め」に、自分が一番伝えたいことを「終わり」の段落に書かせる。 | ★［思考・判断・表現］【新聞】内容の中心を明確にし「始め」に事例をあげた話題提示と、「終わり」に一番伝えたいことを、書いているかの確認。**評価の実際（実現状況）****「十分満足できる」◎**・「始め」の話題提示では、事例をあげ書いている。　　・「終わり」に、自分が一番伝えたいことを考え、書いている。　**「おおむね満足できる」〇****・**「始め」の話題提示で、事例　　 をあげ書いている。 ・「終わり」に、自分が一番伝えたいことを考えている。 |
| まとめ５　分 | ５　まとめる。６　振り返る。 | ♦振り返りノート①の記入（まとめのみ）**予想されるまとめ**　新聞の「始め」に、生き物の○○と、○○の事例を取り入れた話題提示と、「終わり」に、一番伝えたいことが書けた。♦「学びのチェック表」のチェックを行う。 |  |

（５） ５／11時間**（二次：Ａの学習）**

①　本時の目標　 本文の「中（本論１）」の内容を捉えることができる。（ヤドカリがイソギンチャクをつけている理由）

②　本時の授業の工夫 　・ペアでの対話を取り入れ、「中（本論１）」の内容を捉えさせる。

　　　　　　　　　　 　・振り返りノート①②③を記入させることにより、学びを可視化し学習を見直すことができる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時の学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。 | ♦本文の三段落構成で、前時では、「始め」「終わり」の学習をしたことから、本時は、「中」の学習をすることを意識させる。**めあて**　　本文「中（本論１）」は、どんな工夫がされ、説明されているのかな。 |  |
| 展開25　分 | ３　「問い」と「答え」の関係を知り、詳しくするための理由や、事例を読み取る。４　ヤドカリがイソギンチャクをつけている理由を要約し、段落相互の関係を知る。（対話を通して確認） | ♦「問い」と「答え」の関係や、理由や事例について、理解が難しい児童には、簡単な文章構成図を書くよう促す。 | ［知識・技能］【ノート】「問い」と「答え」、それを詳しく説明するために、理由や事例があることを捉えたかの確認。 |
| まとめ15　分 | ５　まとめる。６　振り返る。 | ♦「まとめ」は児童の言葉でまとめさせる。**予想されるまとめ**　　本文の「中（本論１）」には、実験の事例をあげ、ヤドカリがイソギンチャクをつけている理由が説明されている。♦振り返りノート①②③を記入させる。 |  |

（６） ６／11時間**（三次：Ｂの学習）**

①　本時の目標　 生き物の不思議を書くために「始め」「中」「終わり」の段落構成で「中」の部分を新聞に書くことができる。

②　本時の授業の工夫　 可視化した振り返りノートを活用した対話を通して、筆者の書きぶりを自身の書きに生かして新聞を

書かせる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時までの学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　　　生き物の不思議○○と○○について、具体的な理由や事例をあげ、文章「中」を書こう。 | ♦本文の三段落構成で、前時では、「始め」「終わり」の学習をしたことから、本時は、「中」の学習をすることを意識させる。 |  |
| 展開35　分 | 【展開10分】３　振り返りノートを活用した対話を行う。【展開25分】４　生き物の不思議を紹介する新聞（自身の書き）で、「中」を書く。 | ♦振り返りノート（筆者の書きぶり）から、自身の書きに生かせそうなところの対話をさせる。♦自身の書きの「問い」と「答え」。それを詳しく説明するための「理由」と「事例」を整理させて、新聞に書かせる。  | ★［思考・判断・表現］【新聞】「問い」に対する「答え」を、理由や事例をあげて、ひとまとまりの内容にして書けたかの確認。**評価の実際（実現状況）****「十分満足できる」◎**・「問い」に対する「答え」が、書かれている。　・「理由」や「事例」をあげ説明を書いている。　**「おおむね満足できる」〇****・**「問い」に対する「答え」が　　書かれている。 |
| まとめ５　分 | ５　まとめる。６　振り返る。 | ♦振り返りノート①の記入（まとめのみ）**予想されるまとめ**　「問い」と「答え」、「理由」や「事例」を入れ、文章の「中」を書くことができた。♦「学びのチェック表」のチェックを行う。 |  |

（７）  **７／11時間（検証①）（二次：Ａの学習）**

①　本時の目標　 本文の「中(本論３)」の内容を捉えることができる。（イソギンチャクにとっての利益）

②　本時の授業の工夫　 ・ペアでの対話を取り入れ、「中（本論３）」の内容を捉えさせる。

　　　　　　　　　　 　・振り返りノート①②③を記入させることにより、学びを可視化し学習を見直すことができる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時までの学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　本文「中（本論３）」は、どんな工夫がされ、説明されているのかな。 | ♦教材文の本論１、本論２の説明の工夫を　振り返らせる。 |  |
| 展開25　分 | ３　説明の工夫として「問い」「答え」「理由」「事例」以外の工夫について考える。４　イソギンチャクにとっての利益を、要約して内容を読み取る。（対話を通して確認） | ♦対話をさせ、接続語がある時と、ない時を　　比べることで、その良さに気付かせる。 ♦「しかし」という接続語に着目させ、イソギンチャクが、ヤドカリに「付かない場合」と「付く場合」を対比させ利益を読み取らせる。♦イソギンチャクは「ヤドカリにつく場合」のほうが、都合がよいことをおさえさせる。 | ★［知識・技能］【ノート】考えとそれを支える理由や事例接続語との関係に気付いているかの確認。**評価の実際（実現状況）****「十分満足できる」◎**・「では、実は、まず、しかし、なぜなら、だから」等の接続語があることに気付いている。・生き物の利益を説明する際に は、事例をあげて「では、実はまず、しかし、なぜなら、だから」等の接続語を使うと、より分かりやすい説明文になることに気付いている。**「おおむね満足できる」〇****・**「では、実は、まず、しかし、なぜなら、だから」等の接続語があることに気が付いている。 |
| まとめ15　分 | ５　まとめる。**予想されるまとめ** 本文の「中（本論３）」は、理由や事例、接続語を入れ、イソギンチャクの利益について、説明されている。６　振り返る。 | ♦「まとめ」は児童の言葉でまとめさせる。♦振り返りノート①②③を記入させる。 |  |

（８） **８／11時間（検証②）（三次：Ｂの学習）**

①　本時の目標　 生き物の不思議を書くために「中」の部分を新聞に書くことができる。

②　本時の授業の工夫　 可視化した振り返りノートを活用した対話を通して、筆者の書きぶりを自身の書きに生かして新聞を

書かせる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時までの学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。 | ♦文章の「中」には、「問い」と「答え」、「理由」や「事例」以外に、「接続語」使用の工夫があることを確認させる。**めあて**　生き物の不思議（〇〇と〇〇「生き物Ａと生き物Ｂ」）について、理由や事例、接続語の工夫を生かして「中」の説明を書こう。 |  |
| 展開30　分 | 【展開10分】３　振り返りノートを活用した対話を行う。（ペアで対話）【展開25分】４　生き物の不思議を紹介する新聞の「中」を書く。 | ♦可視化した振り返りノート（筆者の書きぶり）から、自身の書きに生かせそうなところの対話をさせる。♦本論１は「生き物Ａ」が主語、本論２は、生き物Ｂ」が主語になっていることをおさえ、理由や事例、接続語を使い自己の新聞を書かせる。 | ★［思考・判断・表現］【新聞】書く内容の中心を明確にし、理由や事例、接続語を入れ、文章を書いているかの確認。**評価の実際（実現状況）****「十分満足できる」◎**・書く内容の中心を明確にし、段落のまとまりを意識し書いている。・「問い」に対する「答え」、「理由」や「事例」などを書く中で、接続語を用いて、文章を書いている。　　　**「おおむね満足できる」〇****・**「問い」に対する「答え」、「理由」や「事例」が書かれている。 |
| まとめ10　分 | ５　まとめる。６　振り返る | ♦振り返りノート①の記入（まとめのみ）**予想されるまとめ**　　理由や事例、接続語を入れ、文章の「中」を書くことができた。♦「学びのチェック表」のチェックを行う。  |  |

（９） ９／11時間**（二次：Ａの学習）**

①　本時の目標　 筆者が一番伝えたいことを、短い言葉でまとめることができる。

②　本時の授業の工夫　 ・ペアでの対話を取り入れ、「筆者が伝えたいこと」を短い言葉で伝え合う活動を取り入れる。

　　　　　　　　　　 　 ・振り返りノート①②③を記入させることにより、学びを可視化し学習を見直すことができる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時までの学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　この文章で筆者が一番伝えたいことを振り返り、短い言葉でまとめよう。 | ♦三段落構成「終わり」に書かれていたこを再度確認する。 |  |
| 展開25　分 | ３　これまでの学習を振り返り、説明文「ヤドカリとイソギンチャク」の文章構成図をつくる。４　文章構成図から、「終わり」にある筆者が一番伝えたいことを短い言葉でまとめる。（対話を通して確認） | ♦文章構成図は、簡単に書かせる。♦「筆者の一番伝えたいこと」が書かれている段落に着目させる。  | ［知識・技能］【ノート】文章全体から筆者の一番伝えたいことを理解しているかの確認 |
| まとめ15　分 | ５　まとめる。**予想されるまとめ**　　筆者が一番伝えたいことは「生き物は互いに助け合って生きている」ということだと分かった。６　振り返る。 | ♦「まとめ」は児童の言葉でまとめさせる。♦振り返りノート①②③を記入させる。 |  |

（10） 10／11時間**（三次：Ｂの学習）**

①　本時の目標　　　生き物の不思議で一番伝えたいことを短い言葉にまとめることができる。

②　本時の授業の工夫　 可視化した振り返りノートを活用した対話を通して、筆者の書きぶりを自身の書きに生かして新聞を

書かせる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入５　分 | １　前時までの学習を振り返る。２　本時のめあてを確認する。**めあて**　生き物の不思議（○○と○○）で、一番伝えたいことを、短い言葉にまとめ新聞の見出しに書こう。 | ♦自身の書きの中で、一番伝えたいことを短い言葉にして、新聞の見出しに書くことを確認させる。 |  |
| 展開30　分 | ３　【展開10分】　振り返りノートを活用した対話を行う。（ペアで対話）4　生き物の不思議を書く中で、一番伝えたいことを短い言葉にする。5　自身の書き（新聞）を見直し、推敲をする。 |  | ［思考・判断・表現］【新聞】　書く内容の中心を明確にし、「一番伝えたいこと」を短い言葉で見出しに書いているかの確認。 |
| まとめ10　分 | 6　まとめる。**予想されるまとめ**　生き物の不思議（○○と○○）の中で、一番伝えたいことは「・・・」と、まとめることができた。7　振り返る。 | ♦振り返りノート①の記入（まとめのみ）♦「学びのチェック表」のチェックを行う。 |  |

（11） 11／11時間

①　本時の目標　 ３年生の児童に向けて、生き物の不思議を新聞で紹介することができる。

②　本時の授業の工夫　　 新聞を紹介する側と、新聞の内容を聞く側で、互いに感想を交流させる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動　 | ♦指導上の留意点　 | 評価規準・評価方法等 |
| 導入10　分 | １　本時のめあてを確認する。**めあて**　　３年生に、自分の書いた「生き物の不思議新聞」を紹介し、感想を伝え合おう。２　紹介の仕方に関する決まりの確認をする。 | ♦新聞を紹介する側を「４年生」、紹介を聞く側を「３年生」とし、ペアの確認や、決まりを確認させる。 |  |
| 展開25　分 | ３　生き物の不思議を紹介する新聞を紹介する。４　感想を伝え合う。 | ♦新聞を紹介した後は、「工夫したこと」を伝えたり、「感想」などを伝え合ったりして交流をもつようにさせる。 | ［主体的に学習に取り組む態度］　積極的に関わり、今までの学習から内容の中心を伝えようとしているかの確認。 |
| まとめ10　分 | ５　振り返る。 | ♦これまでに学習したノートを参照しながら、単元全体を振り返らせる。♦振り返りの感想を書かせる。 |  |